

内藤環境管理株式会社



「あなたの会社の分析室」として

正確・迅速・親切な分析とコンサルで課題解決をサポート



内藤環境管理株式会社
代表取締役社長

ないとう
内藤
たけし
岳 氏

1975年、埼玉県さいたま市（旧 浦和市）生まれ。1998年城西大学経営学部を卒業後、日特エンジニアリングに入社。2004年、内藤環境管理に入社し、IT担当役員に着任。同社ホームページのリニューアルや、化学分析などに使うラボラトリー情報管理システム（LIMS＝リムス）の刷新を進め、会社の業務改革をリード。2009年、常務就任。2015年、先代社長である父・稔氏から経営を引き継ぎ、代表取締役社長に就任。

趣味は車のチューンナップと、子供が関心を持ったのをきっかけに作り始めたプラモデル。総じてものづくりが楽しいタイプ。

座右の銘は最澄大師の言葉「一燈照隅、万燈照国」。「一隅を照らすような小さな灯火も、十、百、万と集まれば、国中を明るく照らすことになる」というマインドで、社員一人ひとりが輝く会社づくりを目指している。

さいたま市南区、閑静な住宅街の一角に建ち並ぶ、いくつもの白い建物。弧を描くグリーンとブルーの矢印のエンブレムを掲げたこの社屋群が、内藤環境管理株式会社のラボラトリーだ。

日本中が高度成長に沸く一方で、水質や空気の汚染といった公害が社会問題化しつつあった1972年に創業した同社は、民間分析会社のパイオニアともいえる存在。水質調査から始まった事業は、土壌、放射能と、次第にフィールドを広げ、現在に至っている。

初代社長の資金と信用をバックに北里大学出身の先代社長が「個人に健康管理が必要なように、社会のためにすこやかな環境管理に貢献したい」という願いをこめて創業してから約40年。昨年事業を引き継いだ三代目社長・内藤岳氏は、次なるターゲットをどこに模索しているのだろうか。

業界内でも高い評価を得ている 「水質の内藤」

——埼玉県内はもちろん、関東屈指の民間化学分析会社として、高い信頼と豊富な実績を誇る御社ですが、まず創業から現在までのあゆみを教えてください。

当社を創業したのは、私の祖父と父であり、現在は会長である父内藤稔が実務責任者でした。

父は北里大学衛生学部に通い、卒業後は埼玉県の保健所に勤務していたのですが起業独立の意識はもともと高かったようで、はじめ

は自分が資格を持っている臨床検査の会社をつくろうかと考えていたそうです。

しかしその後、起業に備えて再び北里大学で学びなおしをしていたときに、当時問題が顕在化しつつあった公害にヒントを得て、将来きっと需要が増えると予想した“環境調査・分析”をテーマに1972年に立ち上げたのが当社です。

当時、こうした調査・分析を行っているのは公的機関がほとんどで、民間会社というのは非常に珍しく、なかなか軌道に乗らなかったそうです。

そんな中、最初の転機となったのが、1976年に改正された計量法でした。これは公害の規制対象となる水質・大気・土壌などの汚染濃度を計測してその事実証明を発給できるのは、登録認可を受けた計量証明事業所のみと定めた法律です。

幸い当社は創業当時から水質分析に従事していたので設備・人材の条件が満たされ埼玉県知事の認可を受けることができ、さらに飲料水の水質検査事業所として厚生大臣の指定も受けることができました。

埼玉県はものづくりが盛んな土地柄ですから、当然産業用水・排水の分析調査需要も高い。当初、水質検査というのはあまり儲からないといわれ、同業他社には敬遠されていた

そうなのですが、先代は機械メーカーと協力して自動測定検査機を開発するなどし、効率化に努めました。そうやって多くの検体を集め、分析実績を積み上げて、業界内で“水の内藤”といわれる地位を確立していったのです。

土壌・製品・放射能

社会と時代のニーズに応え、広がる分野

——スタートは水質分析からだったのですね。現在では、この他にもたくさんの分野を手がけているようですが。

水質の次の柱となったのは、土壌汚染調査や作業環境測定でした。これもまた、産業設備と公害に絡んで需要が高まった分野ですね。

環境に配慮したものづくり、ビジネス活動を行うというのは、現代では当然の企業モラルとなっていますが、かつては決してそうではありませんでした。生産性や利益を優先し、環境に有害なものを排出している会社がたくさんあったのです。

こうした深刻な問題の改善に、分析事業で貢献するのだという想いは“環境管理”という社名にも現れていますが、そのためには時代の変化にも敏感に対応していかななくてはなりません。

水はもちろん、土壌にしても作業環境にしても、かつては問題視されていなかった物質や成分が現在では規制対象になっていますし、東日本大震災後には放射能の調査需要が高まりました。

この他、古い建物には当たり前の様に使われていたアスベストや、製造された製品に残留する化学物質の調査なども高度化しています。

社会・時代・人がより安心・安全な環境やものを求める限り、分析調査のカテゴリーはこれからも広まっていくと思いますし、それに対応できる会社であり続けなければと責任を感じています。



提供するのはデータだけではない
「なんとかしたい」に答えるのが使命

—多くの企業に頼られる存在となった御社ですが、次なるステップとしてはどんなところをめざしているのでしょうか？

創業当時は競合も少なかったようですが、現在では多くの同業者が登場しており、競争も熾烈になっています。

そんな中で生き残るためには、単に測定・分析をするだけでなく、分析結果に基づいてどう改善・予防していくかを、クライアントと一緒に考える力が求められていると感じ

ます。

当社に寄せられる依頼には、実はいくつかの方向性があります。たとえば「この水が飲料水に適しているかを知りたい」といった求めるものが分かっている案件や、「なにか有害なものが含まれていないか」といった確認が主眼の案件などは、その目的に応じた分析データを出せばよいでしょう。

しかし中には「そもそもなにをどう調べたらいいのかわからない」とか、分析結果を見ても「意味するところがわからない」という方もいます。

また出た結果に対して「どうすれば防げる

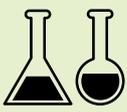


“多検体・短納期”システムを構築し、 拡大しつつある内藤環境管理の調査分析フィールド

水質分析から始まった同社の調査分析フィールドは、時代とクライアントのニーズに応じて、日々拡大している。

過去にあった公害問題や、さまざまな災害による環境汚染といった教訓を乗り越えて、安心・安全な環境を守りながらビジネスを行うことが、企業に欠かせないモラルとなった近代社会。同社の担う使命はとて大きく、調査分析データの精度にかかる責任も重大なものとなるだろう。

依 頼 → 化学分析 → 結果報告 → 対 策

 <ul style="list-style-type: none"> ● 相談 ● 受付 	 <ul style="list-style-type: none"> ● 化学分析 ● 微生物検査 ● 調査・診断 ● 検査・測定  	 <ul style="list-style-type: none"> ● 解析・相談 ● アドバイス 	 <ul style="list-style-type: none"> ● 環境技術 ● 衛生管理 ● 相利共生のプロジェクト 
---	---	---	--

水質分析

同社が「水の内藤」と呼ばれるまでになったのは、短納期で精度の高い水質検査が評価されたため。

- 飲料水検査
- 浴槽水検査
- 排水分析
- 細菌検査
- プール水検査
- 水道用資機材及び給水用具の浸出試験

土壌・産廃分析

環境大臣指定調査機関として、土壌汚染状況調査から、結果に対する評価、汚染が発覚した際の対策方法の立案までを、一貫で提供できる体制を整えている。

- 土壌・地下水汚染調査
- 残土（建設発生土）分析
- 産業廃棄物分析

のか」「他社はどう取り組んでいるのか」といった、次の疑問を抱える方もいらっしゃいます。

こうした異なるパターンの事業課題を抱えてご相談にいらしてくださった方々に、どんなアドバイスやサポートをご提供できるのか、という点が、当社の今のテーマとっていいでしょう。

——分析調査だけでなく、コンサルティング的な業務も増えているということですね。

当社は「あなたの分析室」を標榜し、多検体を正確・迅速に検査できる設備を備え、実績を積んできました。

そこに蓄えられたデータをもとに、「環境技術」「衛生技術」の専門コンサルタントとしてクライアントの事業を支援していきたいと思っています。また、お取引の中で知り合った絆をいかし、問題を抱えたクライアントと、解決手段を持つ社内外の人材・企業とのマッチングなども積極的に行っています。どんなレベル、どんな状況であっても、クライアントは「なんとかしたい!」と思って当社を頼ってくださるのですから、その想いに応えて「快適環境創造」をお手伝いし、相利共生をともに考えていくというのが、当社の身上です。

放射性物質分析

農林水産省認定の民間検査機関、および放射能測定におけるISO/IEC 17025の認定（認定機関：J A B）を受けた調査期間として、安全性の担保、風評被害予防等に貢献している。

- 放射性物質測定

各種製品分析

近年特に需要が伸びているのが海外への輸出入にともない、各国基準を満たしているかを調査する製品分析。国際規格に対応した分析装置を用い、ビジネスのグローバル化をサポートしている。

- RoHS分析
- PFOS・PFOA分析
- ハロゲン分析
- 高懸念物質（SVHC）分析
- フタル酸エステル類分析
- 欧州指令2005/84/EU（おもちゃ）
- 欧州玩具安全指令（EN71 Part 3）
- 水道用薬品の性能検査
- 化学物質管理グリーン調達分析

PCB分析

- 絶縁油中PCB分析
- シーリング材中PCB分析
- ポリ塩化ビフェニル拭き取り試験

アスベスト分析

- 有資格者による調査・分析対応
- 図面調査や採取のプロとして：
 - 建築物石綿含有建材調査者… 1名
 - アスベスト診断士… 1名
- 分析のプロとして：
 - （一社）日本環境測定分析協会
「建材中のアスベスト分析技能試験」…合格技術者 2名
 - （一社）日本作業環境測定協会主催
「石綿分析技術の評価事業」…Aランク認定技術者 4名
- アスベスト分析

気体分析

- 作業環境測定
- 室内空気環境測定
- VOC排出抑制測定
- 悪臭分析・臭気測定
- 排ガス測定

環境を守る「Knights」として 中世の騎士のように誇り高く

——相利共生。互いに利益を循環させ、共に生きるという言葉は、社会のためにもすこやかな環境管理に役立ちたいという創業の理念にも通じる気がしますね。

そうですね。当社のシンボルマークは緑と青の三本の矢印をモチーフにしていますが、これには①自然界の摂理・生成化育、②「正確・迅速・親切」を基本コンセプトとする内藤環境管理の「N」の頭文字、③クライアント・当社・社会の三方善し、をシンボリ化したものです。

この矢印の下には「The Knights」というスローガンが入っているのですが、これは「The Knights of Environmental

Science～環境を守る、科学者集団」という言葉の略です。

「Knight（ナイト）」というのは中世ヨーロッパの騎士のことで、高潔な行動規範を持ち、実践したことで有名です。当社は民間企業としてはかなり早くこうした分析調査事業に進出したため、おかげさまで全国・全県規模の同業種協会で先導的な立場にありますが、業界のレベル向上、そして安心・安全を評価するものにふさわしいモラルの向上などについても、真摯に向き合っていかなければと思います。



安心・安全な環境づくりをサポートするため情報発信や注意喚起も積極的に

同社では、クライアントから依頼された調査分析や評価、コンサルティングを行うだけでなく、自社に集積されたデータをもとに、クライアントにとって有益な情報発信にも熱心に取り組んでいる。

「よりよいものづくりをするには、安心・安全な生産環境の整備が大切です。当社の取り組みによって、経営者はもちろん、現場にいる人たちの関心も高まってくれたら……」と、内藤社長は語る。

情報発信の方法は、関係省庁の動きや報道資料をいち早く紹介するブログ「あなたの分析室だより」http://blog.goo.ne.jp/knights_tblogに加え、自社研究員たちが編集・刊行しているニューズペーパーなど、複数媒体を活用して、幅広い層にアクセスする工夫をこらしている。

①各分野の基本情報をまとめた小冊子を無料配布

自社の状況や、法的なルールなどがよくわからない…という人に対しては、分野別の小冊子を制作して無料配布しており、これを新任者研修のテキストにしているという会社も多い。



- 新任者等への教育に最適
- A5版のハンディサイズ
- 関連内容（基準値等）を簡潔に集約

「ナイト＝内藤」にかけたシャレでもあるのですが、彼らにならった高い理想を掲げ、実践する「環境科学の騎士団、機動力ある環境科学集団」になろうという願いがこもったシンボルマークであり、エンブレムなのです。

私はこうした誇りと、自分の仕事の重要性を、従業員の皆さんにも日々実感しながら働いてほしいと思っています。

一方で、とかく研究職の方というのは仕事熱心であるがゆえに時間を忘れて働いてしまう傾向があるのをなんとか改善したいと思っ
ていまして、私が就任してからはずっと「ワークライフバランスをよくしよう。もっと時間を意識して働こう！」といい続けています。ありがたいことにご依頼が多いこともあり、今のところあまり改善されていないのですが、それでも「より効率的に仕事をしよう、

ひとりで抱え込むのではなくチーム体制で、プロセスと成果が誰の目にもはっきり見えるようにして負担を支えあおう」というメッセージを継続的に発信することで、徐々に社風を変えていきたいと考えています。

また研究職ということもあり、当社はおそらく中小企業の中ではかなり女性比率が高い方です。埼玉県「子育て応援宣言企業」にも認定され、産休・育休などの制度も早いうちから取り入れてきました。

しかし前述したようにみんなが仕事熱心であるがゆえに、活用しにくい雰囲気もあったようです。でも、せっかくの優秀な人材を、結婚や育児によるキャリア中断で失ってしまうのは大きな損失ですね。

こうした社内制度を再整備して、より風通しのいい社風にすること。クライアントだけでな

② Webとチラシでタイムリーなトピックを発信する2種類のレポート

同社では、環境・衛生関連の最新トピックスを盛り込んだ「ニュースコンテナー」(毎月10日発行)と、その時々注目度の高いテーマを取り上げる「ザ・ナイトレポート」(不定期刊行)を制作している。ウェブと紙の2媒体で発信される情報は、業界内でも必見のレポートとして注目されている。



● タイムリーな話題、注目度高いテーマを盛り込んだオリジナルレポート

③ 持ち込んだ試料がどう分析されるのかをその目で確認できるラボ見学

自社が調査分析を依頼した試料が、どのように検査され、どんな数値となるのか。結果に納得のいく検査と説明を心がける同社では、ラボラトリーの見学も受付けている。検査体制やデータの品質管理に自信を持っているからこそ可能な、風通しのいい企業体質が伺える。





1. 3人体制（チームメンバーの仕事を相互に積極的に習得し、年休等が計画的に取得できるフォロー体制）を確立し、次（2. 以下）の取組を推進します。
2. 子どもの学校行事に参加するための年休取得及び健康と家庭生活を充実させるための年休の計画的取得を奨励します。
3. 家庭の用事を済ませるための半日単位の年休取得を実施します。
4. 妊娠、出産、育児を理由に退職した元社員が希望すれば、再雇用します。
5. 大学生を対象にしたインターンシップを実施します。

く、社員に対しても快適環境を実現すること。それがまず私のすべき仕事だと考えています。

安心・安全な玩具を、子どもたちに 子育て中に気づいた新分野の重要性

——先代が切り拓き、築かれた業界内での評価。三代目として、そのビジネスを支える社内環境をさらによくしようとお考えなのですね。その他、これから挑戦しようと考えている事業や取り組みなどはありますか？

完全に学究肌の先代とは違って、私自身はどちらかといえばものづくりが好きな人間です。学生時代は車のチューンナップに熱中していましたし、長じてパソコンやシステム構築などが好きになったのも、そのためでしょう。

実は今おもしろいなあとと思っているのが、子育てなんです。最近、息子がプラモデルなどに興味を持っているものですから、せがまれて作っているうちに、私もすっかりのめりこんでしまいました。

そうして子どもと一緒におもちゃで遊んだり、模型を作っているうちに「玩具の安全性」が非常に気になってきたのです。

幼い子どもが触れ、時には口にくわえたり

もするものですから、親として安全性・信頼性の高いものを選びたい。少子化に悩む日本ではありますが、だからこそ重要性が増す分野になるのではないかと感じました。また、今後海外との取引を目指す企業にとっても、需要がある分野だと思います。欧米では玩具に関する検査・審査基準が厳しく定められていますから、安全性の担保が絶対に必要となります。当社がその役割を果たすことができたらいいなと考えて、現在、玩具メーカーや教育系出版社などへのアプローチを行っているところです。

事業目標としては、利益率を高めるということに尽きますね。数字としては「3年後に8%の利益率向上」を目指し、水・土壌・PCBなど、定評ある分野をさらに効率化して、新たな分野に挑む企業体力を蓄えたいと考えています。

内藤環境管理株式会社 概要



創 業	1972年9月（昭和47年）
資 本 金	5,000万円（資本準備金4,000万円）
売 上 高	14億1,000万円（2015年8月期）
従 業 員	150名（2016年3月期）
本 社	〒336-0015 さいたま市南区大字太田窪2051番地2
電 話	048-887-2590
ホームページ	http://www.knights.co.jp/
取 引 店	浦和支店